

高額武器費 ほぼ満額 4年連続増 聖域扱いに

防衛費補正と一体5.2兆円

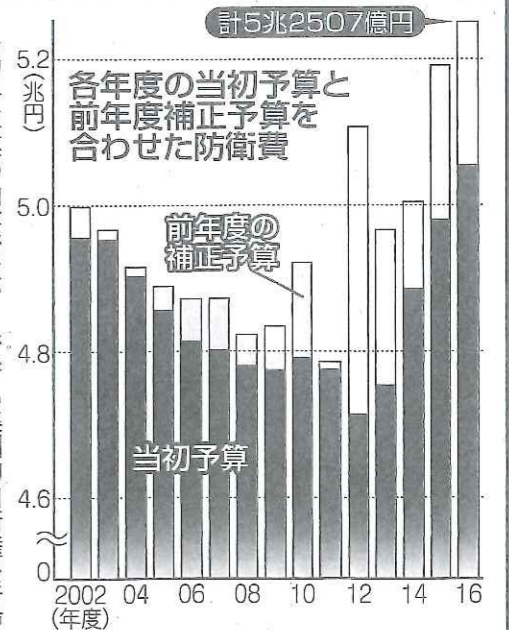
二〇一六年度予算案で防衛費は五兆五千四百一十一億円となり、当初予算案単独で初めて五兆円を超えた。直前に決定した一五年度補正予算案と合わせると五兆二千億円で上回る。来年三月までの安全保障関連法の施行をにらみ、防衛省が要求した最新鋭の高額な武器購入費はほぼ満額回答。防衛予算の聖域扱いが続く。

(横山大輔)

一六年度の防衛費は前年度より七百四十億円(1.5%)増え、当初予算としては昨年に続き過去最高を更新した。減少傾向が続いていた防衛費は安倍政権の発足で一転し、増加は四年連続となる。直前の十八日には一五年度補正予算案も決定。中身は本来なら当初予算案に計

2016年度防衛費に盛り込まれた武器購入の一部と安保法

計上額	要求額	安保法との関連性
イージス艦		
1734億円(1隻)	1675億円(1隻)	弾道ミサイル共同対処と集団的自衛権の行使
新空中給油機 KC46A		
231億円(1機)	要求当時未定	米軍の戦闘に対する支援の拡大
哨戒ヘリコプター SH60K		
1026億円(17機)	1032億円(17機)	平時の警戒監視強化や米艦防護
垂直離着陸輸送機オスプレイ		
447億円(4機)	1321億円(12機)	朝鮮半島有事での隊員輸送など
滞空型無人機グローバルホーク		
146億円(部品など)	367億円(3機)	平時の警戒監視強化や米艦防護



当初予算案の内容では、安保法に基づく自衛隊の活動拡大に利用できる高額武器の購入が目立つ。最新鋭のイージス艦は、安倍晋三首相が他国を武力で守る集団的自衛権を行使する典型例に挙げた弾道ミサイル防護の共同対処や、米艦防護が可能。新空中給油機KC46Aは幅広い米軍機への空中給油ができ、米軍への支援拡大に対応する。哨戒ヘリコプターSH60Kは、平時の偶発的な攻撃に対する米艦防護に能力を発揮する。

GDP 600兆円 厳しい道筋

訪日客、TPP対策優遇 臨時給付金は疑問の声

政府が二十四日閣議決定した二〇一六年度予算案は、安倍晋三首相が打ち出した「名目国内総生産(GDP)六百兆円」目標の達成に向け、初めて編成された予算案となった。一四年度は四百九十一兆円だった

政府案が描くGDP600兆円への道筋 ※は15年度補正予算案に計上

<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化対策 TPP対策 訪日客増加・東京五輪 設備投資・賃上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 企業主導型保育施設整備(797億円) 65歳未満の遺族基礎年金受給者ら臨時給付金(450億円) 低所得年金受給者ら臨時給付金(3624億円※) 輸出総合サポートプロジェクト(15億円) 攻めの農林水産業への転換(3122億円※) ふるさと名物応援事業(10億円) 観光庁予算倍増(200億円) ナショナルトレーニングセンター拡充整備(2億円) ロボット導入実証事業(23億円) 若者の正規雇用化・待遇改善推進(410億円)
--	--

600兆円(2020年度?)
491兆円(14年度)

GDPを二〇年度をめどに二割強もかさ上げする必要があるので、一五年度補正予算案と合わせて一体的に